

NHK 高校講座「総合的な探究の時間」と学習アプリ「Clica」を利用した総合的な学習の時間のスクーリングモデルケースの開発について

～ 通信制のスクーリングにおいて主体的・対話的で深い学びができる可能性 ～

宮崎県立延岡青朋高等学校通信制課程

1. はじめに

本校は昭和22年に宮崎県立延岡中学校定時制夜間部として認可された。昭和44年に宮崎県立延岡第二高等学校として独立し、通信制課程は、平成13年度より開設された。平成18年から、宮崎県立延岡青朋高等学校と校名を改め現在に至る。学期の区分毎に単位の認定を行う分割認定制度を採用している。

通信制課程には、本校の他、県立の高千穂高等学校、富島高等学校、高鍋農業高等学校を協力校として、施設・設備を借り、日曜日に本校職員が協力校に出張する形式でスクーリングを実施している。クラスは高千穂クラス、本校クラス、富島クラス、高鍋クラス、併修クラスを合わせ17クラスで運営を行っている。月曜日は本校のみ月曜スクーリングという名目でスクーリングを実施している。

2018年度10月1日現在、男性182名、女性156名、計338名である。本校は毎年約150名の生徒が入学してくる。新入生は約50名、残りの約100名は転入生や編入生、転籍生となる。卒業生は前期、後期合わせると毎年100名前後となる。また、次年度の受講登録をせず退学となる生徒は毎年60名程度となる。ここ数年在籍数はやや減少傾向にある。

2. 本校生徒の状況

上述のように、入学生の内訳は、新入学生が約1/3、転入生や編入生・転籍生が約2/3の生徒である。これにより、在籍生徒の学力差はかなり激しい。県内でも有数の進学校から転入してくる生徒もいれば、小中学校時代から不登校となり、基本的な学力が付かないまま入学してくる生徒もいる。全体としては、学力が低い生徒の方が圧倒的に多い。

また、本校生徒はさまざまなトラブルやコンプレックスを持って入学してくる者も多く、本校を積極的に希望して入学した生徒は少ない。

3. 研究の背景

宮崎県では、主体的・対話的で深い学びを「確かな学力」を育む高校授業改革推進事業の柱として位置づけ、効果的な授業を行うことを目指している。

本校でも主体的・対話的で深い学びを取り入れた教材を開発しなければならなかった。通信制高校ではレポートによる自己学習が「主体的な学び」として捉えることができるが、「対話的な学び」を展開すると非常に難しい問題であると考えている。たださえ少ない面接時数に、本校の生徒は受講会場、受講日をすべて自由に選択することができる。教員も毎週日曜日は3校に分かれてスクーリングを行っている。これにより、スクーリングでは生徒とは一期一会的な出会いとなる。

スクーリングにおいて、教師対生徒、生徒対生徒の対話的で深い学びに行き着くまでの十分な信頼関係を構築する時間がない状況にあった。

このような状況が要因の一つとなり、本校生徒はスクーリング中での教員からの問いかけに対して自ら発言することや解答を述べることは滅多にない。しかし、スクーリングが終わった後に他の生徒がいなくなるまで待ち、そこから自分の意見を述べに来る生徒や、スクーリングに関連した質問をしに来る生徒はいる。また、少人数でのスクーリング時や一人しか受講生がいないときには質問をすると素直に答えてくれる場合がほとんどである。さらに、レポートの内容を教えてもらうために、スクーリング日以外に登校し教師とマンツーマンで指導を受けにくる生徒も多い。

上述のような行動を取る生徒に、なぜ他の生徒がいるスクーリング中では教師に対して質問を行わなかったり、教師からの問いかけに返答をしないかを聞いたところ、

- 「そもそも解答に自信がない。」
- 「間違った解答や的外れな質問をして、周りから馬鹿にされたくない。」
- 「目立ちたくない。周りの目が気になる。」
- 「教師から自分の答えや意見を否定されるのが嫌だ。」

と返答する生徒が大半であった。これは本校生徒のほとんどが中学校や前籍校において、成績不振や人間関係のトラブルを抱え、その際に学校や教員に対する不信などが重なる中で本校に入学してきたためだと考える。

では、一人の時や少人数には質問や問いかけに答えてくれるのはなぜかと聞いたところ、

- 「他の生徒がいらないから周りを気にせず発言することができる。」
- 「本当は教員に対して話や質問をしたいと思っていた。」

などと答え、本校職員やスクーリングに対してコミュニケーションを取ること自体を完全に否定しているわけではないことが分かった。

4. 仮説の設定と研究テーマの設定

今回の研究において、本校生徒は知識を得ることや自己の発言によって自己承認をしてもらいたいという欲求はあるが、生徒自身の答えに自信がないことや他生徒からの評価や目立つことへのためらいがあるためにスクーリング中に発言できないという仮説を立てた。

この仮説に対する解決方法と主体的・対話的で深い学びにつながるスクーリングを結びつけるモデルケースを開発することを研究の主題とした。

そこで、NHK 高校講座「総合的な探究の時間」と無料の学習アプリである「Clica」を使い、本校の総合的な学習の時間のスクーリングにおいて、主体的・対話的で深い学びのできるスクーリングのモデルケースの開発を目指した。今回、NHK 高校講座「総合的な探究の時間」を利用した理由としては、「総合的な学習の時間」のスクーリングでの教師からの問いかけには一般の科目と異なり、いわゆる正しい解答というものがなく、生徒自身が考えたそのものが解答となるため、自由に発言できる可能性が増えるのではないかと考えたためである。

また、今回利用する「Clica」はチャット形式の記入ができる無料アプリであり、発言を匿名にすることも可能なため、画面上に出された意見は他の生徒には誰の意見なのか分からない。これも生徒からある程度自由な意見を引き出すことができるのではないかと考えた。匿名性はあるが、スクーリングにおいて教師から意見を拾われた生徒は承認欲求がある程度満たされると考えた。

5. 研究の内容

① NHK 高校講座「総合的な探究の時間」の視聴とアンケート

(ア) 教員に対する視聴とアンケート結果

今回の研究に際し、本校職員に NHK 高校講座「総合的な探究の時間」について、第 1 回「のんちゃんの場合」と第 2 回「ふりゅーくんの場合」の両方を視聴してもらい、いくつかの質問項目に回答してもらった。本校職員の回答結果は以下の通りである。

(質問) この番組は「総合学習」を担当すると仮定したとき、スクーリング時に役に立ちそうですか？	
役に立ちそう	役に立たなさそう
12 名	1 名
役に立つと思われる理由 【抜粋】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路選択の幅を広げるための切り口が新鮮 ・ 人が何かを目指していく姿を見ることができるので、非常に見やすい。 ・ 実際に取り組んでいる様子や流れを細かく扱っているので、生徒がイメージしやすいと思う。 ・ 調べ学習でインターネット検索にとどまらず、人に直接話を聞いたり、進路室を利用したりと広がりがあり良かった。 ・ 身近なスマートフォンを使って仕事を調べるのは、日々生徒たちが気軽にできそうである。 	
役に立たないと思われる理由 【抜粋】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ファシリテーター(伴走者)の存在なしで自学自習は難しい。 ・ 外部機関(施設見学)とのコンタクトなども含む展開になることがあるので、生徒の実態やシステム上、生徒単独の行動は難しいと感じる。 	

(質問) 通信制高校生の学習教材としてどう思うのか？ 【抜粋】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業や店舗などにアポイントを取ったり、インタビューをする場面が出てくるが、本校生徒がそれを行うと考えたとき、ハードルが高いと感じるかもしれない。 ・ 踏み込んだ教材だと思う。放送内容では1対1で対応したものであるので、学習には十分良いと考える。 ・ 検索方法をテロップで流したりすることは分かりやすい。ただ、宮崎県での通信環境が悪いので、通信料を割いてまで熱心に検索するか疑問が残る。 ・ 第1回放送回のアポイントの取り方では、何度も断られる場面があり、それを見た生徒の中には不安になる者もいると思う。 	

(イ) 生徒に対する視聴とアンケート結果

H30 年度の前期の総合的な学習の時間のスクーリングにおいて、NHK 高校講座「総合的な探究の時間」を生徒に視聴させた。「総合的な探究の時間」は第 1 回「のんちゃんの場合」、第 2 回「ふりゅーくんの場合」のどちらかを選択させ、視聴後にアンケートを回答してもらった。

後期では研究授業を行った際に第 2 回「ふりゅーくんの場合」の放送回を視聴後アンケートに回答してもらった。また、研究授業以外での総合的な学習の時間においてもアンケートを採った。前期と後期ともに同じ質問項目を回答してもらった。回答結果は以下の通りである。

(質問1) この番組はあなたの学習の役に立ちましたか？				
	役に立った	普通	役に立たなかった	無記入
前期(43名)	23	16	0	4
後期(33名)	20	13	0	0

(質問2) 自分も総合的な学習を探究的にやってみたいと思いましたか？また、その理由。		
	はい	いいえ
前期(43名)	32	11
後期(33名)	21	12

質問2:「はい」と答えた理由【抜粋】

- ・ やりたいことがあるなら、自分から行動に移すことが大切だと思ったから。
- ・ 将来の夢はあるけれど、不安や悩みもたくさんあるから。
- ・ 自分のやりたいことが今まで以上により具体的に知ることができるから。
- ・ やりたいことがあっても、自分一人だとできることが限られる。しかし、学校の授業内で取り組むことにより幅が広がると思うのでやってみたい。
- ・ 考え方を変えられる気がした為。

質問2:「いいえ」と答えた理由【抜粋】

- ・ 現在仕事をしているため。(複数回答)
- ・ むずかしそうだから。
- ・ 自信がない。
- ・ 興味がわかなかった。

質問3:主人公を見て感じたこと【抜粋】

- ・ 自分とほとんど同じで好きなことならできそうと思いました。
- ・ 自分のしたいことをはっきりさせ、それについて自分でいろいろ調べている姿に感心しました。
- ・ 自分も一番好きなことを見つけて実現できるように頑張りたいと思います。
- ・ 僕と同じにおいがしました。
- ・ 共感・共通することが多かった。
- ・ 番組が関わっているというのもあるが、行動があつて良いなと思った。
- ・ 少し自分と考えが似ている所があり、その変化も自分もそうかもと思うことがありました。
- ・ 自分と同じような考えをもっている。

② 学習アプリ「Clica」利用について

(ア) 本校職員の反応

本校職員を対象に研修として「Clica」を利用してもらった。

(質問) 自分のスクーリングで「Clica」を利用したいか。また、その理由があれば聞かせてください。		
積極的に利用したい。	1	<ul style="list-style-type: none"> リアルタイムに生徒が反応するのが楽しみ いろいろな意見が聞けるのが楽しみ
機会があれば利用したい。	7	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にもなじみやすい形なので、それを機会に興味を持ってもらえればと思う。 教科としてスクーリングで扱うのは難しいかもしれないが、LHR、総合学習、人権学習、生徒会行事、ディベートやディスカッションでは面白い授業になりそうである。
あまり利用しようとは思わない。	6	<ul style="list-style-type: none"> 会話・対話の意味や価値が薄れる。 つぶやき・チャット的な意見はインスタントの意見の垂れ流しに思えて、深い思考や討議になるとは思えない。 荒れた意見が出たときの対処が難しい。 「Clica」を扱う自信がない。スピード感についていけない。
利用するつもりはない。	1	<ul style="list-style-type: none"> 体育での利用は難しい。保健でなら…
(質問) スクーリングで「Clica」を利用する場合に考えられるメリットとデメリットを記入してください。		
メリット		<ul style="list-style-type: none"> 人前で発言できない生徒にはよい。 匿名で入力することで意見や考えを表明できる生徒がいるのだろう。 生徒は「書く」よりは少しは進んでやってくれそう。 自由な発表ができ、多様な意見が出ることで授業が広がる。 発言をとどめておくことができ、後で振り返りながら意見を見ていくことができる。 生徒の意見を複数一度に拾い上げることができる。 データ集計等がすぐにわかる。
デメリット		<ul style="list-style-type: none"> 自分で発言する有効性が失われる。 匿名を悪用しないか。 「挙手、立つ、声を出す、考えを述べる」という行動がとれない生徒を育てることになる。こんなに大切なことを教えなくてどうする？ 深く考えること、討論する対話するといった面が難しい。 対話することがないので、対話する能力が養われない。 自分の意見に対する他人の発言によりショックを受ける場合もあるのではないか。 どう深い学びにつなげるか。使い終わって「ああ、楽しかった」ではいけない。 操作側(教師側)にいる場合、各種端末の扱いの不慣れがあり、授業を展開してく自信がない。 無線 LAN がつながりにくい(本校の通信環境の問題)。 もしも接続がうまくいかなければ時間のロスが…(本校の通信環境の問題)。

(イ) 職員を対象とした「Clica」利用時の通信環境の状況について

職員を対象とした研修では、PC 室にある PC、県から配付された学校用タブレット、職員の個人所有のスマートフォンを使って「Clica」を利用し、その操作性などについても調査した。

1. プリントでの案内や口頭の指示によって「Clica」のコメント入力欄までスムーズに移動することができましたか。学校用タブレット、PC、携帯電話・スマートフォンについてそれぞれお答えください。

問 1	使用機器	スムーズに移動	なんとか移動	一人では無理
	学校用タブレット (使用できず4名)	7	1	3
	パソコン	9	5	1
	スマートフォン (携帯電話所持者4名)	11	0	1

職員の研修では「Clica」を利用するにあたり、プリントによる案内や口頭での指示によってコメント入力欄まで移動することがほとんどできた。パソコンよりもスマートフォンでの操作の方が「Clica」までスムーズに移動することが多かった。

2. 学校用タブレットは校内の無線 LAN に接続できましたか。(PC 室、通常教室)

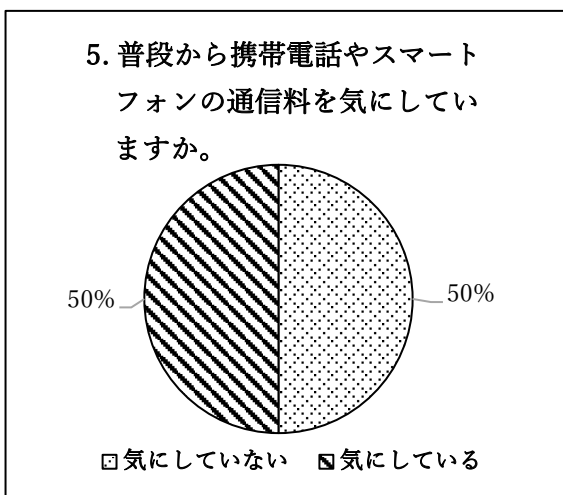
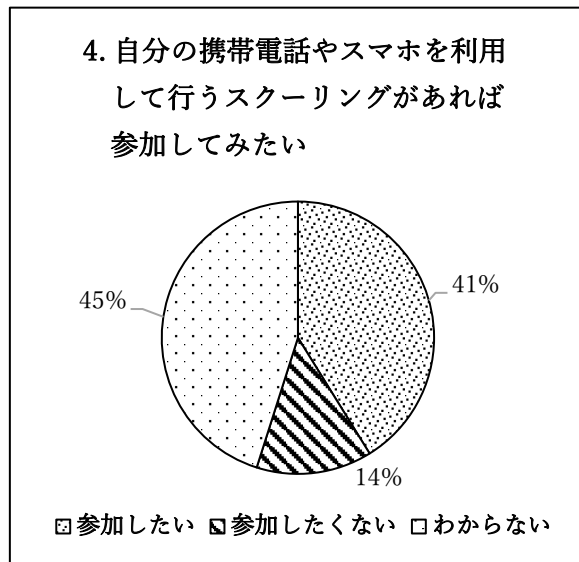
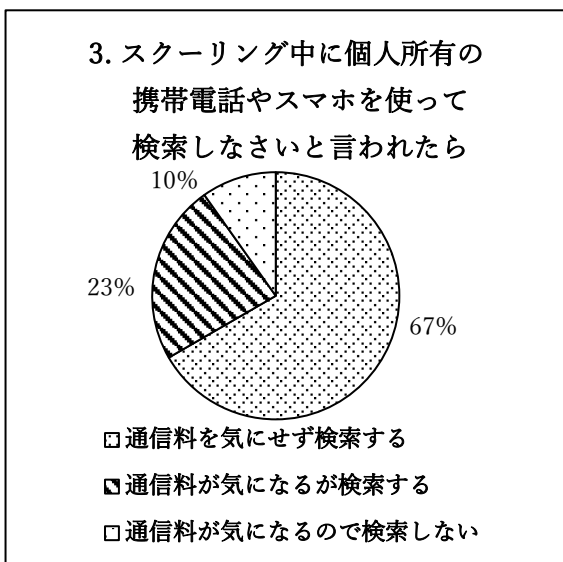
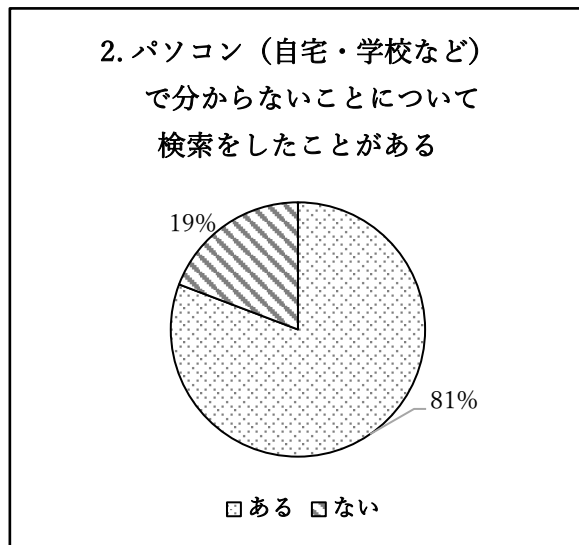
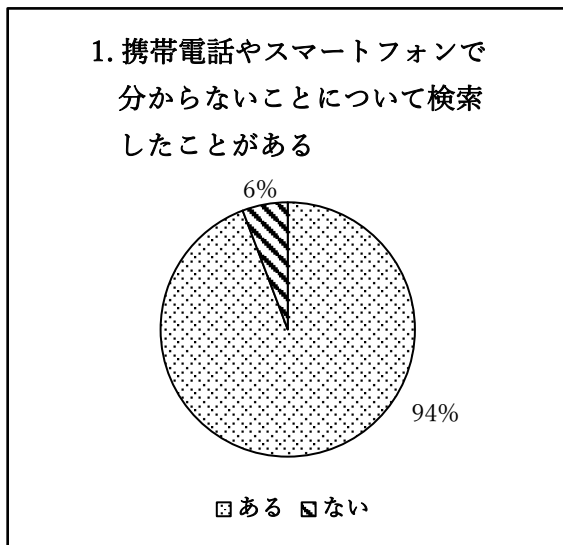
問 2	PC 室	ずっと接続できていた。	0
		ある程度接続できていた。	1
		接続が途切れることが多かった。	1
		接続できなかった。	10
	通常教室	ずっと接続できていた。	8
		ある程度接続できていた。	0
		接続が途切れることが多かった。	0
		接続できなかった。	4

今回の研究では県から以前から配付されていたが、本校ではほとんど利用されることのなかった学校用のタブレットを有効活用しようと考えた。職員を対象とした研修において学校用タブレットを使って「Clica」を操作しようとしたところ、上記の結果となった。

PC 室では校内の無線 LAN がまったくと言っていいほど繋がることがなかった。学校用タブレットでは、一般の教室でも校内の無線 LAN に繋がるタブレットと繋がらないタブレットが存在した。

③ - i 生徒の携帯電話やスマートフォンなどの利用に関する調査

H30 年度前期の定期テスト受験のために登校してきた生徒を対象に、携帯電話やスマートフォンに関する以下の調査を行った。結果は以下の通りであった。(回答者52名)



③ - ii 調査結果に対する分析・考察

調査項目【1・2】から、ほとんどの生徒が知りたいことがあると、携帯電話やスマートフォン・パソコンを利用し、自ら検索を行ったことがあることが分かった。このことから、「Clica」についてキーワード検索の指示をすると、生徒自ら「Clica」のサイトまで容易にたどり着くことができると考えられる。また、最近ではスマートフォンには QR コードを読み取るアプリもあり、そういったアプリからサイトまで誘導させることができる。

調査項目【3・5】では、普段から通信料を気にする生徒と気にしない生徒がちょうど 50% ずつであった。また、教員の指示があれば通信料の発生にかかわらず検索すると回答した生徒が 90.2% となり、通信料が気になって検索したくないと回答した生徒をはるかに上回った。

調査項目【4】では、携帯電話やスマートフォンを使ったスクーリングに参加したいという生徒が 41.2% いた。しかしながら、調査の質問内容が適切でなかったのか、「自宅でスクーリングを受けられる」などこちらの意図したものと異なった理由を書いた生徒も少なくなかった。また、「わからない」が 45.1% を占めたが、理由として多かったのが「スクーリングの内容次第」や「スマートフォンを利用したスクーリングがイメージできない」といったもので、スマートフォンを利用したスクーリングについて、利用方法を具体的に説明しなければならないことが分かった。

今回の調査では、携帯電話やスマートフォンを所持していることを前提とした調査を行った。実際今回の調査では携帯電話やスマートフォンを所持していないと申し出る生徒はいなかった。ただ、経済的な事情により携帯電話やスマートフォンを所持していない生徒の存在や、一定期間利用を止められている生徒も存在することを考慮しなければならない。

④ 研究方法の決定

「Clica」の一般的な使用方法は、個人所有のスマホを使ったものであるが、それだと通常通信料が発生する。生徒へのアンケート結果やこれまでの状況から、本校生徒の中には経済的に厳しい状況に追い込まれている者もいることがわかっている。したがって、スクーリングにおいては生徒に経済的な負担をかけさせないことにも考慮しなければならなかった。

宮崎県は通信環境が整っておらず、Wi-Fi も整備されていない地域がほとんどである。そこで、県から配布されたものの本校では使用頻度が少ない学校用タブレットを活用することを考えた。生徒はパソコンでの文字入力よりもスマートフォンやタブレットでの文字入力の方が慣れていることもタブレット利用を計画した要因となった。しかも、この学校用タブレットは校内の無線 LAN が利用できると謳われているものであった。しかしながら、今回の調査によって上述の結果のように、学校用タブレットがスクーリングにおいて活用できる状況にないことが分かった。このことから、学校用タブレットを活用してスクーリングを行うという計画を変更せざるを得なくなった。

これまでの調査結果から、今回の研究授業では、PC 室に設置されているパソコンと生徒所有のスマートフォンを利用することとした。個人所有のスマートフォンを利用する場合には通信料が発生することを事前に伝え、パソコンかスマートフォンのどちらを使うかは生徒の判断に任せた。

また、スクーリングを始める前に、誹謗・中傷的な発言や差別的な発言をしないことなど情報モラルを守った使用方法を約束させた。この約束に違反した生徒は個人を特定し指導することを伝え、未然にトラブルを防ぐ方法を探った。

ただし、それ以外の状況では、どの生徒の意見かなどは確認しないことも伝えた。

⑤ 研究授業（学校用タブレット使用不可 Ver）

◆ 学習指導案（簡易）

受講生徒数 13名

指 導 過 程			
過 程	時 間	学習活動および内容	指導上の留意点
導 入	5	・入室時にPCを立ち上げるよう指示する。 ・学習手帳・スクーリングカードを集める。	・学習手帳を集める際に、レポートの進捗状況を確認する。
	5	・スマートフォン・PCで、「Clica」を立ち上げさせる。	・PC使用を基本とするが、生徒が希望すればスマホもOKとする。
	10	・「Clica」を操作させる。 操作をする上での留意点について理解する。	・「Clica」の操作方法について理解し、自分の意見を匿名で反映させられることに気付かせる。 匿名だからといって、他者を傷つける発言をしてはいけないことを理解させる。 次の展開をスムーズに進めるため、アイスブレイキング的な質問も行う。
展 開	15	・「Clica」を利用しながら仕事について他生徒の動向や意見を知る。	・いくつかの※質問項目に答えさせ、出された意見を拾い、話を発展させる。
	20	・NHK 高校講座「総合的な探究の時間」第2回「ふりゅーくん」の場合を観て感想を述べる。	・「仕事」についてある程度考えさせたあとにNHK 高校講座を視聴させる。
	10	・番組（DVD）鑑賞の後で「仕事」について、自分の考えをもう一度見つめ直す。	・NHK 高校講座視聴の前後で「仕事」についての考え方の変化をまとめさせる。
	15	・「仕事」についての仮説を立てる。 レポートをまとめる。	
ま と め	10	・スクーリングに対するアンケートに回答する。	・第2回レポート作成時に必要であるNHK 高校講座はTV・インターネット・DVDで見られることを伝える。 ・「Clica」を利用して意見交換を行ったが、最終的なゴールは、自分の意見を自分自身で発言できることであることを伝える。

⑥ 研究授業での「Clica」を使った生徒の書き込み例

(ア) アイスブレイキング質問項目

行ってみたい遠足場所は？

未設定 ディズニーランド	18/11/05 11:33:54	■ そう思う
未設定 水族館		
未設定 ディズニーランド	18/11/05 11:33:48	■ そう思う
未設定 長崎	18/11/05 11:33:36	■ そう思う
未設定 イオンモール	18/11/05 11:33:36	■ そう思う
未設定 イオン	18/11/05 11:33:33	■ そう思う
未設定 フランス	18/11/05 11:33:31	■ そう思う
未設定 阿蘇山	18/11/05 11:33:20	■ そう思う
未設定 東京	18/11/05 11:33:04	■ そう思う

今までになりたかった職業は？

未設定 バスケット選手	18/11/05 11:40:11	■ そう思う
未設定 漫画家	18/11/05 11:40:01	■ そう思う
未設定 医療関係	18/11/05 11:39:58	■ そう思う
未設定 保育士	10/11/05 11:39:56	■ そう思う
未設定 トリマー	10/11/05 11:39:52	■ そう思う
未設定 プログラマー	18/11/05 11:39:50	■ そう思う
未設定 保育士	18/11/05 11:39:50	■ そう思う
未設定 幼稚園教師	18/11/05 11:39:44	■ そう思う

(イ) 仕事について質問項目

あなたにとって仕事とは？（視聴前）

未設定 生活するために必要なこと	18/11/05 11:43:35	■ そう思う
未設定 自分自身のため	18/11/05 11:43:35	■ そう思う
未設定 趣味	18/11/05 11:43:31	■ そう思う
未設定 将来のため	10/11/05 11:43:10	■ そう思う
未設定 生活のため	10/11/05 11:43:10	■ そう思う
未設定 金	18/11/05 11:42:56	■ そう思う
未設定 お金を稼ぐ	18/11/05 11:42:54	■ そう思う
未設定 生活や趣味に資金を回すための手段	18/11/05 11:42:52	■ そう思う

あなたにとって仕事とは？（視聴後）

未設定 やりがいのあることをすれば、充実した人生を送ることが出来る	18/11/05 12:36:20	■ そう思う
未設定 自分のやりたいこと、やりがいを感しながら働くこと	18/11/05 12:36:18	■ そう思う
未設定 自分の興味があること・好きなことをしながらお金を稼ぐこと	10/11/05 12:34:20	■ そう思う
未設定 辛くても楽しくできるかどうか	18/11/05 12:33:57	■ そう思う
未設定 自分の趣味のため	18/11/05 12:33:06	■ そう思う
未設定 趣味の延長戦	18/11/05 12:32:54	■ そう思う
未設定 興味について、もう少し真剣に考えようと思った	18/11/05 12:30:54	■ そう思う
未設定 自分の考えをしっかり持つという姿勢に行動に移して自分と真似するべきだと思った	18/11/05 12:30:36	■ そう思う

(ウ) NHK 高校講座「総合的な探究の時間」視聴後すぐの生徒の感想

- ◇ 多くのことに共感できた。彼のようにやりたいことを仕事とするため、努力していきたい。
- ◇ 自分も就きたい職業についてももっと詳しく調べてみたいと思った。
- ◇ 自分の考えしっかり持っていて実際に行動に移して自分も真似するべきだと思った。
- ◇ 将来について、もう少し真剣に考えようと思った。

以上のように、研究授業での「Clica」を使った生徒の書き込みからもわかるように、NHK 高校講座「総合的な探究の時間」に対する書き込みは概ね好評であった。

6. 研究結果

(ア) 研究授業受講生徒(13名)の反応

本校生徒には、「Clica」を利用した研究授業の際にアンケートに回答してもらった。

なお、NHK 高校講座「総合的な探究の時間」については【5. ①(イ)】に記載している。

1. 今回のスクーリングでは、パソコンとスマートフォンのどちらで「Clica」を利用しましたか？

パソコン	12	スマートフォン	1
------	----	---------	---

2. プrintの案内や教師の指示によってコメント入力画面までスムーズに移動できましたか？

移動できた。	5	移動できなかった。	1
--------	---	-----------	---

3. 「Clica」の操作はスムーズにできましたか？

スムーズに操作できた。	5	スムーズに操作できなかった。	1
-------------	---	----------------	---

4. 「Clica」を使った総合学習のスクーリングを今後も続けていきたいですか？

今後も「Clica」を使ってみたい。	4	もう使わなくてよい	1	どちらでもよい。	3
--------------------	---	-----------	---	----------	---

・普段はできないことなので、もっと体験したいから。

5. 「Clica」を使った他教科のスクーリングに参加してみたいですか？

他教科でも「Clica」を使ってみたい。	3	使わなくてよい	1	どちらでもよい。	4
----------------------	---	---------	---	----------	---

・自発的な発言が苦手なので、「Clica」はありがたいから。

・他の意見も分かるから。

6. 「Clica」の利用についての感想

<ul style="list-style-type: none">・ 新鮮な体験ができて楽しかったです。簡単に他人の意見を知ることができるのは便利でした。・ 分かりやすくて楽しかった。・ 普段は発言しづらいけど、パソコンでやると自分の意見を言えて、楽しく授業ができた。

7. ※ スマホ利用者(研究授業では1名)のみ ※

「Clica」の操作中、パケット通信料は気になっていましたか？

気になっていなかった。	1	気になった。	0
-------------	---	--------	---

(イ) 研究授業を参観した本校職員の反応

研究授業を参観していただいた教員に感想などを書いていただいた。

① 「Clica」に関すること

- ・ 従来の個人探究の形より、他者の考えを瞬時にダイレクトに知るのは以前と比較すると能動的だと思う。ただし、「一時的な考え」になることが多く、自分の思考を「熟慮」させることにはつながりにくいと感じた。
- ・ 「Clica」のあとに、実際に意見交換をして考えをまとめたり、深めたりする場面があっても良いのではないかと（通信制では難しいかも知れないが）。せっかく出た個人の意見がもったいないと感じた。
- ・ 本当は友達と意見交換してみたいけどできない、と考えている生徒たちには1つのきっかけとして大切な手段だと思う。
- ・ 生徒は使い方に慣れている様子であった。匿名性が高く、意見を変えやすい面があることも良い点であると感じた。
- ・ 選択肢以外を選ぶ動きもいくつか見られたが、教員はそれに対応する指導のスキルが必要だと感じた。
- ・ 非常に短い言葉での意見が集約しやすい。時間をかければかけるほど、意見を出しやすくなることも良い。
- ・ 集約された意見に対しての教員の反応は素直に反応しても良いと感じた。
- ・ 自分が生徒側だったら楽しそう。
- ・ パソコン・スマホを生徒に選択させたが、パソコンの方が利用率が高く、スマホは一部に限られるのではないかと思った。理由として、1つ目はスマホでは通信料がかかること。2つ目はスマホの方がパソコンより誤作動が多いため心配であることが挙げられる。

② 「Clica」の利用法についてのアイデア

- ・ 主人公の行動の振り返り(国語科)
- ・ 心理描写の変化(国語科)

(ウ) 研究授業を行った感想

NHK 高校講座「総合的な探究の時間」に出演していた生徒は一般的な通信制高校生であるので、本校生徒も主人公と重ね合わせやすいと思われる。

スクーリングに際し、「Clica」を使って誹謗中傷や差別的発言は絶対にしてはいけないと伝えていたため、今回の研究授業では「Clica」での書き込みに対しトラブルは起こらなかった。あらかじめ生徒に警告していればトラブルは起こらないと感じた。

職員を対象とした研修では「Clica」での質問項目について研修を進めながら入力していたため、時間のロスとなっていたが、研究授業では事前に質問項目をまとめておき、コピー＆ペーストを行った。生徒の意見の書き込みに対して質問項目を臨機応変に変えられるという利点もあるため、今後、この形式のスクーリングに慣れていけばもっと深い議論を誘導できることが予想される。

7. 考察・検証

今研究の仮説として挙げていた「本校生徒は知識を得ることや自己の発言によって自己承認をしてもらいたいという欲求はあるが、生徒自身の答えに自信がないことや他生徒からの評価や目立つことへのためらいがあるためにスクーリング中に発言できない」は、【6. 研究結果(ア) 研究授業受講生徒の反応】のうち、「普段は発言しづらいけど、パソコンでやると自分の意見を言えて、楽しく授業ができた。」や「自発的な発言が苦手なので、「Clica」はありがたかった。」というコメントがあったことから、ある程度正しいことが実証された。

8. 今後の課題

① 高校講座について

- ・ レポート作成時期と「総合的な探究の時間」の放送のタイムラグについて

今回の研究を行う際、NHK エデュケーショナルと「総合的な探究の時間」の制作打合せにH29年9月と12月の2度参加させていただいたあと「総合的な学習の時間」のレポート作成に取りかかり、H30年1月にはレポート原稿が出来上がっていた。ところが、「総合的な探究の時間」の放送開始はH30年4月であった。その放送内容と私自身が打ち合わせ時の内容を解釈して作成したレポートとにギャップがあった。H31年以降のレポートについては、放送内容とリンクしたものを作成できるが、今後も新しい分野の放送回ができることを見越して、もっと幅を持たせたレポートを作成しないと放送に対応できない可能性がある。そのためにも、レポートとは切り離れたスクーリング展開も構築していく必要がある。

② スクーリングについて

- ・ 総合的な探究の時間に係わるレポート作成について

本校では「総合的な学習の時間」には2科目(総合学習A:2単位、総合学習B:1単位)あり、職員数の関係上、同時に開講している。総合学習Aでは進路について、総合学習Bでは調べ学習がメインとなっている。

次年度から「総合的な学習の時間」は「総合的な探究の時間」に移行しなければならなくなった。本校でも「総合的な探究の時間」に対応した内容を検討しなければならないため、今後は総合学習A・Bのレポート内容を改訂して、探究する項目をいくつか用意し、生徒のニーズに合ったものを作成しなければならない。

「総合的な探究の時間」を細分化し、いずれも「Clica」を利用した双方向のコミュニケーションが取れるスクーリングを展開していきたい。

そのためにも今後も教材研究を行い、レポートの精選が必要となる。

- ・ タブレットの活用について

今回の研究授業では、生徒はスマートフォンとパソコンを任意で選ぶことができたが、そのほとんどがパソコンでの操作することを選択した。これは先の調査結果もあったが、やはり通信料がかかることが原因であると考えられる。通信料がかかるものとかからないものがあれば、通信料がかからないものを選ぶのは必然ではないであろうか。それでも生徒はパソコンでの文字入力より、

スマートフォンやタブレットの文字入力の方が慣れているため、学校用タブレットが本来の機能を果たし、校内において無線 LAN が繋がる環境になれば、学校用タブレットを選択する生徒が増えてくると思う。そういった環境になると、「Clica」での質問項目に対し、さらに生徒の発言（記入）量が増えるのではないかと考える。

- ・ 継続的な指導・追跡調査について

本校の生徒はスクーリングについて、4つのスクーリング会場のうち、いつ、どの会場で受講しても構わない。また、受講についても最低面接時数を受ければ良い。さらに、教員も毎週異なるスクーリング会場に行くため、スクーリングを受ける生徒とは一期一会的なものとなる。

今回の研究では NHK 高校講座「総合的な探究の時間」を利用したものであり、内容については生徒の進路に係わることから継続的な指導を行った方がより効果があると思われる。しかし、上述の通り、継続して指導をすることができないため、より効果的な指導を行うためには担任との連携を取る必要がある。生徒のスクーリング感想にもあったが、「分かりやすく楽しかった。」から、さらに深い学びにするための工夫や努力が必要である。

- ・ 受講者が少ないスクーリングの場合について

自分自身で発言することにためらう生徒に対して「Clica」が有効だと考えていたため、スクーリング参加者が少ない場合には、「Clica」利用の匿名性が薄れてしまうため自由に意見を記入できなくなる可能性がある。ただし、「主体的・対話的で深い学び」の大きな目的の1つに「自分の意見を表現できる」ことがあるので、「Clica」に頼らないスクーリングの開発にも着手しなければならない。

9. まとめ

NHK 高校講座「総合的な探究の時間」は職員・生徒とも概ね好評であったが、放送回数が少ないため、現状では長いスパンを見据えた教材として利用することは難しいと思われる。しかし、今回利用した放送回は進路実現のための指導のきっかけとしては大きな役割を果たすものであった。今後 NHK 高校講座「総合的な探究の時間」の放送回数の増加とその放送内容が多岐にわたることが見込まれるため、「総合的な探究の時間」の教材として利用できる幅が広がり、年間を通した教材として利用できる可能性が高い。

今回の研究では「総合的な探究の時間」でのスクーリングのモデルケースとして考えたが、「Clica」を利用したスクーリングは他教科にも充分応用できるものだと考える。特に周りの目を気にして発言することに躊躇する生徒にとっては、直接発言せずとも自分の意見を伝えられる「Clica」でなら、意見を述べる機会が増えると考えられることが生徒アンケートからも見て取れた。

私個人として生徒に対して求めたいことは、画面上に生徒の意見を表すだけでなく、生徒自ら発言することによる活発なスクーリングを展開させることである。「Clica」にはニックネーム機能があるため、自分の意見として表現したい場合はニックネームもしくは生徒本人の氏名を入力することができる。スモールステップを踏んで生徒自ら発言するという最終的な目標にたどり着かせたいが、なにぶん各科目とも面接時数が少ない。各教員が単独で行動しても効果が薄いと思われる。学校全体が一丸となってこの問題に取り組めば一層の効果があると思われる。そのためにも、生徒から

積極的に発言ができる仕掛けを考えたり、学習環境を整えていかなければならない。

10. おわりに

今回の全通研での発表校に選ばれるまでは、放送教育の利用方法といえばスクーリング代替に使うものであり、放送教育教材を利用して生徒の学力向上や学習習慣の確立などを考えたことはなかった。

しかし、本校では職員が毎年のように減らされており、常勤の職員だけでは学校運営ができる限界を下回った状態に陥ってしまった。このことにより、職員はみな余裕のない状態で校務分掌やスクーリングに追われている状況にある。このような状況の中、本校においても「主体的・対話的で深い学び」が求められ、スクーリングにおいてどうすれば生徒に対して「主体的・対話的で深い学び」ができるか考慮していた。

今回の研究に際し、NHK エデュケーショナルさんから協力を持ちかけられ、NHK 高校講座「総合的な探究の時間」についての利用方法を NHK エデュケーショナルさんと一緒に模索してきた。

NHK 学園高等学校、神奈川県立横浜修悠館高等学校、栃木県立学悠館高等学校には、視察を快く引き受けてくださり丁寧な案内・説明をしていただいた。今回の研究では残念ながら活用することができなかったが、熊本県立湧心館高等学校、福岡県立博多青松高等学校、兵庫県立青雲高等学校には、研究のための資料提供をお願いしたところ快く了承していただいた。また、本校通信制課程の職員はもちろん、定時制課程の職員にもタブレットや PC のメンテナンスに協力いただいた。このように、今回の研究はたくさんの方々の協力によって成り立ったものである。

通信制高校においては本校と同様に厳しい状況に置かれている高校も多いという話を聞く。九通研ではよく「九州は1つ」という合い言葉を使う。これを「九州は1つ」ではなく、「通信制高校は1つ」を合い言葉に、研究内容を該当校や一部の地区にだけに止めるのではなく、すべての通信制高校でデータを共有できる環境（全通研 HP の充実など）を構築すれば、各高校が抱える問題の解決の糸口となり、各学校・各職員の負担が少しでも軽減されるのではないかと感じた。

最後に、森美樹様、磯野洋好様をはじめ、NHK エデュケーショナルの関係者の方々には多大なるご助言・ご指導・ご協力をいただき、本当にありがとうございました。この場をお借りして感謝の意を表したいと思います。